

拝啓 清秋の候、貴社ますますご繁栄のこととお慶び申し上げます。

来年のNHK大河ドラマ主人公は幕末に活躍した江戸幕府老中の小栗忠順です。

江戸幕府きっての切れ者の天才官僚で、横須賀製鉄所建設、幕府近代化、近代的な通貨制度など幕末期の画期的な多数の政策に絡んでおります。ただ単なる天才官僚というだけではなく国家大局を見る戦略眼と、目先の戦いに勝つための確実な戦術眼をともに備えていた傑物です。

薩長が西郷隆盛を総大将に江戸へ向かって進軍していた時に徹底抗戦を唱えてました。小栗忠順の凄いところはただ闇雲に意地で徹底抗戦を唱えていた訳ではなく、確実に幕府軍が大勝利となる戦術も提案しました。敢えて箱根を越えさせて関東平野に進軍させ、フランスから大量に購入した最新銃で武装した近代的な精鋭幕府陸軍で迎撃し食い止めながら別働部隊で箱根の関所を押さえ封鎖し兵站を切る、そして幕府が誇る圧倒的な海軍力で制海権を握り、迂回して敵の本拠地を艦船で大規模攻撃するという大胆かつ巧妙な戦術でした。

薩長軍の天才軍師・大村益次郎が、小栗忠順考案のこの戦術を聞き、その通りになっていたら薩長軍は大敗、我々は皆んな死んでいただろうと語った有名な逸話があります。

「徹底抗戦＝前近代的な鎖国や旧体制への固執」と誤解されがちですが、小栗は、誰よりも古い体制(譜代大名優遇や旧来の藩制)に絶望し、新しい時代の到来を強く望んでいた「最強の近代化論者」でした。彼は、日本が西洋列強の植民地にならないためには、強力な中央集権体制が必要だと考え、小栗の描いた徹底抗戦のゴールは「江戸幕府の完全な復活」ではなく、「一度武力の圧倒的な差(底力)を見せつけて薩長の鼻を明かし、交渉の主導権を握った上で、徳川家を中心に据えた新たな中央集権政府(あるいは公武合体政権)を即刻樹立すること」にありました。このように国家大局観をしっかりと持った上での徹底抗戦でした。ただ肝心なトップである徳川慶喜が恭順派代表で抗戦を認めず、ライバル勝海舟も恭順派だったため小栗忠順の意見は採用されず罷免されてしまいます。

罷免された小栗忠順は地元の群馬県高崎市へ帰り、地元の治水工事を行うなど余生をゆっくりと過ごすつもりでした。しかし天才・小栗忠順の存在を危険視した明治新政府(薩長)が小栗を捕縛し濡れ衣の罪を被せ斬首しました。大河ドラマのタイトルが「逆賊の幕臣」…なんかとても可哀想なタイトルですが、それだけ明治新政府(薩長)が小栗忠順を畏れたということだと思います。

日露戦争で勝利した東郷平八郎が小栗忠順の遺族を自宅に招いて、「日本海海戦で完全な勝利を得ることができたのは、小栗上野介さんが横須賀製鉄所(造船所)を作っておいてくれたおかげです」と言った有名な話があります。この横須賀製鉄所を建設する際、幕府内の反対勢力から口撃された時に小栗忠順が言った言葉が「幕府の運命には限りがあるが、日本の運命には限りがない。日本のために成るなら、それでよいではないか!!」でした。

小栗忠順は逆賊として葬られてしまいましたが「欧米の先進事情を誰よりも正確に理解し、日本の国家改革に落とし込もうとした人物」としてもっと評価されるべきです。まさに天才・傑物と言っても過言ではなく、僕自身、来年の大河ドラマはとても楽しみにしております。



代表取締役 寺阪 剛



Back Number



YouTube



Instagram

2026.10

NEWS LETTER

VOL.130



※公開日未定
ネプコンジャパンにて当社のブースが「基盤の窓口」様の取材を受けました

共和ゴムニュースレター 第130号 2026年10月発行

〒573-0102 大阪府枚方市長尾家貝町3丁目4番地3
Tel. 072-855-1039(代表) / Fax. 072-855-1090(代表)

共和ゴム株式会社
KYOWA RUBBER Co., LTD.

NEWS

01 PC橋シンポジウム@大分に
出展いたします

大分で開催される『第35回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム』に出展いたします。
このシンポジウムは、プレストレストコンクリート(PC)技術に関する学術・技術の最新情報を共有・議論し、技術者や研究者の研鑽・交流を通じて、PC技術のさらなる発展を図ることを目的として開催されます。
詳細は下記の通りとなります。

開催日 10月22日(木)・23日(金)

開催場所 別府国際コンベンションセンター
(B-Con Plaza)

主催 公益社団法人 プレストレストコンクリート工学会

出品商品 日本高圧コンクリート様との共同開発品
(共同特許)を展示します

本社・営業部 道上 隼人

いつもニュースレターをご愛読いただきありがとうございます。

営業部の道上です。

今回は年9月9日(水)～11日(金)に幕張メッセで開催された「ネブコン ジャパン2026」への出展レポートをお届けします。

共和ゴムにとって、今回が「ネブコン ジャパン」への初出展でした。初めての出展ということで、「どのような反応をいただけるのだろう？」という期待と少しの緊張を持ちながら展示会当日を迎えました。



実際に3日間出展してみると、想像以上に多くの方に共和ゴムのブースへお立ち寄りいただき、さまざまな質問やご相談をいただきました。今回は、特に反響の大きかった製品や、来場者の皆さまからいただいたご意見、そして展示会を通して感じたことをご紹介します。

「ネブコン ジャパン」は、電子・半導体関連の技術や製品が集まる展示会です。

共和ゴムでは今回、これまで培ってきたゴム成形技術や特殊材料、異素材との複合化技術などを、実際の製品やサンプルを通してご紹介しました。

主な展示内容はこちらです。

○カーボンラバー ○超高比重ゴム ○多層成形ゴム

○熱可塑性低硬度ゲル ○PEEK樹脂加工品

共和ゴムが得意としているのは、単純に「ゴムを成形する」だけではありません。

ゴム×異素材、特殊配合、異なる機能を組み合わせた成形など、お客様の用途に合わせた製品づくりにも取り組んでいます。
今回は、普段の展示会ではなかなか接点を持つことのできない電子・半導体関連の企業様にも、共和ゴムの技術を知っていただく貴重な機会となりました。

展示会期間中は、本当に多くの方に共和ゴムのブースへお越しいただきました。

製品を手にとっていただきながら、

「こんなゴム製品があるんですね」

「この材料はどのような用途に使えますか？」

「この構造なら、こんな用途にも使えるのでは？」

といったご質問やアイデアを数多くいただきました。

今回印象的だったのは、特定の製品だけに注目が集中したのではなく、それぞれの展示品に幅広く興味を持っていたことでした。

普段私たちはゴム製品を扱うことが当たり前になっていますが、異なる業界の方とお話することで、

「この技術には、まだ別の使い方があるかもしれない」

と気付かされる場面も多かったです。

展示会ならではの面白さを改めて感じた3日間でした。

今回のネブコン ジャパン2026で、特に多くの方に興味を持っていただいた製品のひとつが「カーボンラバー」です。

カーボンラバーは、カーボン層とゴム層を組み合わせたハイブリッド型の機能性ゴムシートです。

大きな特徴は、カーボン側に導電性、ゴム側に絶縁性という、表裏で異なる性質を持たせている点です。

ブースで実際にサンプルをご覧いただいた方からは、

「これは面白いですね」

「こういう材料を探していました」

「この用途にも使えるのでは？」

など、さまざまな反応をいただきました。

私たちが特に興味深く感じたのは、共和ゴム側から用途をご説明するだけでなく、来場者の皆さまから新しい用途のアイデアを数多くいただけたことです。

カーボンラバーは、まだ用途開拓の途中にある製品です。

今回いただいたご意見やアイデアも参考にしながら、今後さらに可能性を広げていきたいと考えています。



今回の出展は、共和ゴムにとって単に製品を紹介だけの展示会ではありませんでした。

半導体や電子分野では、耐熱性、絶縁性、導電性、耐薬品性、精密加工性など、材料に対してさまざまな性能が求められます。

その中には、ゴムや樹脂、異素材との複合化によって解決できる課題もまだまだあるのではないかと考えています。

共和ゴムでは今後も、

○特殊ゴム材料 ○導電・絶縁機能を持つ材料 ○樹脂加工品

○異素材との複合成形 ○高比重・高硬度など特殊物性を持つゴム

など、これまで培ってきた技術を活かしながら、新しい分野への用途開拓を進めていきます。今後とも宜しく願いいたします。

